

楽しく美しい まちづくり通信…④7

受け継がれて数百年

「おしら様」の起源は定かではありませんが、数百年もの間、人びとによって信仰され、受け継がれてきた代表的な民間信仰の一つです。

おしら様は、東北地方を中心に県内でも広く信仰され、蚕の神様、目の神様などとして旧家

にまつられていることが多いようです。特に、養蚕が盛んに行われていた地方に多く残っています。

養蚕は、市内でも昭和四十年ころまで広く行われていたが、現在は斗米地区などの一部の地域でみられるだけになりました。

一般的には、おしら様と呼ぶのが普通ですが、おしら神とかおしら仏などと呼ぶところもあります。

高村さん宅には、いつの時代のものか分かりませんが、二百年以上前から代々伝えられてき

たという、おしら様が四体まつられてあります。桑の木と伝えられているご神体におせんたく(着物)をたくさん身につけた高さ三十センチ位のものです。うち二体は、昔、高村さんの住んでいる地区で火事があり、火を嫌うおしら様が逃げ出し、家の脇にある大きなサワラの木に、とまって泣いていたといいます。

その後、この木は、神がやどつたご神木として現在でも大切にされています。

一般的におしら様のお祭りは、旧暦の一月十六日に行われていることが多く、高村さんの家でもこの日、お餅をついてミズキを飾り親戚を招いて、毎年行われています。おしら様におせんたくを着させて、だっこしたり、子供達におんぶさせてその日一日おしら様と遊びます。身につけたおせんたくは、赤い色を主体としたもので、おしら様がとてもよろこぶ色と言われている

す。

十年ぐらい前、市内のある「いたこ」に口寄せをお願いしたところ、おしら様は「おせんたくと子供におんぶしてもらおうのが



おんぶして遊ぶ子ども

嬉^{うれ}しい、でも最近では子供達が少なくなっておんぶしてくれないので寂しい」と口寄せがあったといっています。「確かにその時は、子供も大きくなって、近所の親戚には子供がなかったんですよ。今は、孫や親戚の子供が来て遊んでくれます。昔と違って、子供が少なくなつたから・・・おしら様もわかるんですね」と高村さんは言います。

この日、高村さんの家では、集まってくれた親戚の人達に、精進料理でもてなします。一日中、飲んで食べて歌って、おしら様と過ごします。

「精進料理も昔は、ごちそうだったんですよ。今は何でも食べられる時代になったけど、これからもこの日だけは、今までどおり続けたい。」と話してくれました。

こまみ



3月11日～4月10日

★3月★

11日(火) 三歳児健康診査

(市保健センター)

12日(水)

13日(木)

14日(金)

15日(土)

16日(日)

17日(月)

18日(火) 市民生活相談(市民相談室)

19日(水)

20日(木) 春分の日

21日(金)

22日(土) 放送記念日

23日(日) 市議会議員選挙投票日(各投票所)、世界気象デー

24日(月)

25日(火) 電気記念日

26日(水)

27日(木)

28日(金)

29日(土)

30日(日)

31日(月)

(月)

(月)